

地域アクションプラン進捗管理シート 総括表 目次

1. 安芸地域	1
2. 物部川地域	4
3. 高知市地域	7
4. 嶺北地域	12
5. 仁淀川地域	15
6. 高幡地域	18
7. 幡多地域	23

表中の記号等の解説

《仕 分》

- A …… 平成21年度において、事業活動などに本格的に着手するもの
(生産、加工、流通、販売など)
- B …… 平成21年度において、事業活動などの前段階に着手するもの
(企画、戦略づくりなど)
- C …… 平成21年度において、具体的な取組内容の検討を継続するもの

《進捗度(達成度)》

- ◎ …… 実施計画を超えて進捗した(達成できた)
- …… 実施計画どおり進捗した(達成できた)
- △ …… 実施計画どおり進捗しなかった(達成できなかった)

《補助金》

総：県総合補助金 地：県地域づくり補助金 県：その他県単補助金等
国：国庫補助金等 セ：産振センター補助金等

《アドバイザー》

ア：産業振興アドバイザー エ：工技センターアドバイザー
他：その他アドバイザー

【1. 安芸地域】 地域アクションプラン進捗管理シート 総括表

No.	項目	室戸市	安芸市	東洋町	奈半利町	田野町	安田町	北川村	馬路村	芸西村	仕分	進捗状況(上半期)		支援策導入状況	
												I 進捗度(達成度)	II 進捗(達成)状況及び翌四半期等へ向けての対応方針	補助金	アドバイザー
1	まとまりのあるナスの産地づくり	●	●	●	●	●	●			●	A	○	・チーム会が定期に開催できている。また、研究会活動も、重点地区の「安芸」を中心に計画的に実施できている。 ・園芸研究会の役員改選期にあたっており、22園芸年度の活動がスムーズに進むよう支援する。		
2	ユズを中心とした中山間地域の農業振興	●	●				●	●	●		A	○	・チーム会により、JA及び各市町村との計画の共有化ができた。 ・各市町村、JAの目標を明確にするためサブシートを作成し、細かな進捗管理ができるように工夫した。	国・総	
3	環境保全型農業の推進	●	●	●	●	●	●	●		●	A	○	・若干の遅れはあるもののほぼ計画どおり進んでいる。遅れている項目(地域版GAPチェックシート1など)については、関係機関等と十分連携し進めていく。		
4	西山きんとき芋販売促進事業	●									A	○	・加工品開発班(PT)を編成した。事務局を中心に試作・販売活動を実践している。ただし、産業振興推進総合支援事業申請「芋貯蔵庫整備」は来年度へ先送り。 ・定期的に加工品開発班会を開催し、来年度の事業申請に向けて事業内容と経費等を積み上げる。試食宣伝については今年度実施することから別の事業(県特産野菜コラボレーション事業)の導入を検討する。		ア
5	土佐ジローの生産拡大		●								A	△	・事業費の精査等に時間を要し、採択申請に至っていない。事業費を精査するとともに、事業計画についての地元の理解協力や土佐ジローを核に据えた地域全体の取組体制の整備等を中心に支援する。		
6	特産品「イチジク」による地域の活性化				●						B	○	・ほぼ計画どおりに進んでいる。特に、取組み全体のイメージをチーム内で共有することで目指すべき方向が再確認された。 ・新規栽培希望者に対し栽培前技術指導の徹底を図るとともに、新たな加工品開発に向けた検討を進める。		
7	森林情報のデータベース化	●	●	●	●	●	●	●	●	●	B	○	・概ね計画どおりの進捗。 ・引き続き、森づくり推進課、高知東部森林組合と協議しながら森林情報の更新を行う。		
8	林業再生事業	●	●	●	●	●	●	●	●	●	A	○	・概ね計画どおり進捗。 ・引き続き実施計画に基づいて実行していく。		
9	上土佐(かみとさ)備長炭販売促進事業	●		●							A	○	・審査会へ向けての対応 ・地元自治体の継ぎ足し補助		
10	木質バイオマス活用事業		●							●	C	○	・木材産業課、市町村、活性化センターとの打合せも概ね予定どおりすすみ、安芸地域の方向性を決めた。 ・実施計画に基づいて勉強会を開催する。		
11	林業加工品の販売促進								●		A	△	・事業認定の遅れにより、コンベの実施時期がずれ込んだ。また、新型インフルエンザの流行により、海外展示会への参加を見送り1月の展示会1回のみとする。(インフルエンザの流行の状況によっては中止)	総	

No.	項目	室戸市	安芸市	東洋町	奈半利町	田野町	安田町	北川村	馬路村	芸西村	仕分	進捗状況(上半期)		支援策導入状況	
												I 進捗度(達成度)	II 進捗(達成)状況及び翌四半期等へ向けての対応方針	補助金	アドバイザー
12	キンメダイのブランド化に向けた取組	●			●						B	△	・「産業振興推進総合支援事業」審査会への採択申請を見合わせて、水産振興部の「水産業総合支援事業」に申請することとなった。 今後、10月初旬の同事業審査会に向けた準備を進める。		
13	スジアオノリのブランド化の取組	●									A	△	・「産業振興推進総合支援事業」審査会への採択申請を見合わせて、水産振興部の「水産業総合支援事業」に申請することとなった。 今後、10月初旬の同事業審査会に向けた準備を進める。		
14	低価格な定置網漁獲物の販売戦略	●									C	△	・加工業者と漁協との事業連携についての協議がまだ十分でないため、「産業振興推進総合支援事業費補助金」事業審査会への申請は9月に延期した。 ・今後、9月の審査会に向けて、関係者協議による事業内容の詰めと資料作成などの準備を行う。		
15	新たな漁業の導入とシラス魚価等の向上		●								B	○	・自然条件に影響されるアカムツ深海絹の遅延はやむを得ないものの、シラス魚価向上の取組はほぼ計画どおり進展している。第3四半期では民間企業参入も視野に広範囲となったシラス魚価向上に取り組む検討・実行組織づくりにも改めて取り組むこととなった。このため、これまでの支援活動に加え、関係者のコンセンサス形成づくりに向けて効果的な活動展開を行っていく。		ア
16	「加領郷」ブランドによる地域の活性化				●						C	△	・「産業振興推進総合支援事業」審査会への採択申請を見合わせて、水産振興部の「水産業総合支援事業」に申請することとなった。 今後、10月初旬の同事業審査会に向けた準備を進める。		
17	河川の周年利用による地域経済の活性化				●		●				B	○	・当初の計画に沿った現地調査が実施でき、データ、サンプルも予定どおり収集できた。9月中旬にチーム会をかねた地元関係者への報告会を行う。		
18	海洋深層水の利用拡大	●									A	○	・新規深層水利用企業の拡大、新規研究開発のJST向け助成申請を実施。 ・引き続き、利用拡大の支援を実施する。		
19	新たな地域資源としてリュウゼツランの活用の検討	●									C	○	・採取許可申請等の遅れにより、成分分析が遅れており、8月末予定の検討協議会を9月中旬から下旬に遅らせて実施する。		
20	海の駅「東洋町」の活性化			●							B	△	・周辺施設(自然休養村)との連携を含めて今後の展開を考える。		
21	道の駅「田野駅屋」の機能強化(特産品開発及び情報発信)					●					B	△	・特産品開発、販売については、保留となった加工施設の指定管理とは別建てで町内事業者に委託することよりスタートする方向となったが、事業計画の日程的な部分は全て練り直しとなる。円滑な事業実施に向けて早急に見直しを行う。 ・田野駅屋の施設拡張及び機能強化については、期日的な遅れは生じたが計画どおり実施することとしており、年度内に完遂できるよう進捗管理を行っていく。		
22	体験型観光の旅行商品化と販売・受入体制の整備	●	●	●	●	●	●	●	●	●	B	○	・素材集については予定通り、PRDVIについては天候不順で撮影スケジュール遅延模様。商品化検討会については素材集に併せて完成する予定であり、概ね順調な進捗。	総	
23	地質資源を活かした交流人口の増加(世界ジオパーク認証に向けた取組)	●									A	○	・ソフト・ハード施策ともに着実に進捗しているものの、若干の遅れ気味である点と地域の参画(特にガイド)についてなお一層の工夫と努力が必要。	総	

No.	項目	室戸市	安芸市	東洋町	奈半利町	田野町	安田町	北川村	馬路村	芸西村	仕分	進捗状況(上半期)		支援策導入状況	
												I 進捗度 (達成度)	II 進捗(達成)状況及び翌四半期等へ向けての対応方針	補助金	アドバイザー
24	「海の駅とろむ」を核とした交流人口の拡大	●									A	○	・イルカについては、予定どおりの進捗、補助事業部分はほぼ終了した。 ・ダイビングについては、漁協への説明等進捗が遅れている。	総	
25	パーデハウス室戸を核とした健康観光産業	●									A	◎	・計画に沿ったワーキングの実施や早期の旅行商品販売開始など順調に進捗している。		
26	龍馬伝に関連した特産品開発や周遊ルートの確立等	●									B	○	・当年度中、放映期間中、放映終了後の誘客の個々の取り組みについて、実施主体、方法、時期等を明確にしたスケジュールを明確にする必要がある。	地	
27	スポーツキャンプのまちづくり	●									C	○	・改修内容について、再度精査することとしたため予定より遅れているものの、施設の利便性等の向上のためのタイムラグでありやむを得ないとする。		
28	ダイビングの受け皿づくりによる交流人口の拡大		●								C	△	・室戸の活動の情報共有しながら、今後の展開を考えていく。		
29	魚梁瀬森林鉄道遺産を活用した交流人口の拡大				●	●	●	●	●		B	○	・ガイド先進地からの講師招聘や商業ベースのツアー受入の実績が出てきた。県外事務所から林業関係、鉄道関係の問い合わせや広報協力の申し出もあるとのことであり、今後の来訪者増に備えなお一層のPRと受入体性の充実が必要。	総	
30	ふるさと海岸を中心とする海洋資源を活用した観光事業				●						B	○	・(仮)海浜センターの大筋も決まり、今後はセンターの管理運営先の選定等に入っていく。		
31	体験型観光への取組 ～大野台地は、えいところ！～					●					B	○	・大野台地における体験型観光受入れのテストケースとも言える7月の稲田塾受入れは、過密なスケジュール設定、進行管理の甘さ、人員配置の不備等、様々な反省点が挙げられるが、概ね好評ではあり、一定の手ごたえは得られた。今後の体験メニュー策定にあたり大いに参考とできるものであったと言え、この経験を踏まえて本事業に臨んでいく。		
32	安田川の清流資源を活かした交流人口の拡大						●		●		B	△	・馬路安田の事業の合意とそれぞれの事業内容の確認協力はできたものの、安田サイドの事業の具体化が遅れており早急に対応していく必要がある。	地	
33	古民家と地場産品販売施設等を活かした交流人口の拡大						●				B	○	・安田町まちなみ雑踏衆を中心として、ガイド研修等を行うとともに、周辺町村と連携した活用を検討	総	
34	龍馬伝を活かした観光振興							●			B	○	・産業振興補助金への申請の過程でソフト・ハード施策、実施主体、スケジュール等誘客に必要な事項の整理が出来たので、今後取り組みが加速することが期待できる。	総	

【2. 物部川地域】 地域アクションプラン進捗管理シート 総括表

No.	項目	南国市	香南市	香美市	仕分	進捗状況(上半期)		支援策導入状況	
						I 進捗度(達成度)	II 進捗(達成)状況及び翌四半期等へ向けての対応方針	補助金	アドバイザー
1	南国市の園芸主幹品目の振興	●			A	○	おおむね実施計画どおりに進捗している。第3四半期には、各部会での取り組みが具体化する時期で、進捗状況を確認していく。引き続き、農家のやる気を引き出し、方針の同意形成を行う。	県	
2	香南市・香美市の園芸主幹品目の振興		●	●	A	○	・絞り込んだ先行品目について、早急な取り組みが必要なエメラルドメロンとユズについては、県単補助事業の活用も含めて予定通り実施されている。 ・その他の園芸主幹品目についても環境保全型農業技術の導入や選果場の整備など、必要な対策が進められた。 ・次期四半期では、土佐香美ブランドの方向を明確にする取り組みと次年度以降に絡む先行品目の選定や戦略を検討する。	国・総・県	
3	地産地消・食育の推進	●			B	○	・配送機能そのものは順調だが、需要側(学校側)の発注面での課題や、供給側の農産品情報(時期、品目、量等)の提供の仕組みづくりの未着手等による献立づくり段階での情報不足等、当初から想定していた課題が明らかになったので、南国市において検討してもらい、下半期に向けた事業展開策を詰めていく。一方、需給両サイトの構成員からなる地産地消推進協議会も2年目を迎え、当項目を含めて一体的に検討していく体制が整いつつある。このため、下半期以降の事業展開や手順を検討するうえでの好機ととらえ一定の時間をかけ、自律的に動ける体制となるよう、関係機関と連携していく。(1/2) ・事業採択の遅れ等もあり、全体的にやや遅れ気味であるが、一方で、セミナーを前倒して順次開催することなどで、意欲ある人材の情報も得られている。農商工連携交流会は市の産業振興の鍵となる取り組みであり、立ち上げの時期と当初の構成員は重要な要素であることから、翌四半期での立ち上げに向けて引き続き支援していく。(2/2)【No. 3, 5, 16同一シート】	県	
4	生産者と消費者をつなぐ場づくり ～まずは農家レストラン～	●			C	○	当初計画より前倒した検討ができ、細かな課題整理等は必要ながらも、おおむね候補地の仮決定まで上半期で整理できた。 下半期は、設置面(ハード)・運営面(ソフト)の両面からの検討を並行して行う予定で、当初計画と若干前後する可能性もあるが、当初設定した年度末時点の到達目標に向けて引き続き支援を行っていく。		
5	地域の特産品づくり ～農産物加工への取組～	●			C	○	事業採択の遅れ等もあり、全体的にやや遅れ気味であるが、一方で、セミナーを前倒して順次開催することなどで、意欲ある人材の情報も得られている。農商工連携交流会は市の産業振興の鍵となる取り組みであり、立ち上げの時期と当初の構成員は重要な要素であることから、翌四半期での立ち上げに向けて引き続き支援していく。【No. 3, 5, 16同一シート】		
6	大学生による地域応援団(サポーター)づくり	●	●	●	B	△	事業の全体構想と目標が関係者間で共有できていない。また、活動の主体となる大学生の活動についても個別に下話している段階。今後も、取り組みの推進体制等について関係者との協議を進めていく。		
7	農産物加工等への取組計画		●		B	○	おおむね実施計画どおりに進捗している。翌4半期には地域雇用創造実現事業等により具体的な動きが進むので、計画に大幅な遅れが生じないよう支援を行っていく。		
8	高齢農家とともに支える農業の仕組みづくりと集落の活性化			●	A	○	おおむね計画どおりに進捗している。高齢農家とともに支える農業の仕組みづくりと集落の活性化チーム会を定期的に関催し、取り組み方法の検討や情報の共有化を徹底する。	県	

No.	項目	南 国 市	香 南 市	香 美 市	仕 分	進捗状況(上半期)		支援策導入状況	
						I 進捗度 (達成度)	II 進捗(達成)状況及び翌四半期等へ向けての対応方針	補助金	アドバイザー
9	物部のユズを総合的に売り出す取組 ～ユズのトータルステーション(拠点)の構築～			●	C	○	おおむね実施計画どおりに進捗している。地域雇用創造推進事業等による具体的な動きと連動し計画的に支援を行っていく。 【No. 9、11 同一シート】		
10	香美市ブランドの確立・特産品づくり			●	C	○	当面の事業主体となる地域雇用創造協議会事務局とは、事務局会等を通じて意思疎通を行っており、今後とも密接に連携を図り、下半期に向け具体的な動きとなるよう支援を行っていく。		
11	作業者の確保 ～「雇いたい人」「働きたい人」のマッチング～			●	C	○	おおむね実施計画どおりに進捗している。地域雇用創造推進事業等による具体的な動きと連動し計画的に支援を行っていく。 【No. 9、11 同一シート】		
12	民有林における間伐の推進	●	●	●	A	○	森の工場拡大に向けて現地状況の確認及び路網整備計画を関係機関の担当者と協議し設立に向け地元協議を行っている。	県	
13	木質バイオマスの活用に向けての取組	●	●	●	C	○	概ね計画通りに実施されている。今後は、香南市の環境省事業「低炭素地域づくり面的対策推進事業」及び環境省「地域グリーンニューディール基金事業」等を活用し支援を行っていく。	国・県	
14	県産材の利用推進	●	●	●	A	○	・治山ダムにおけるサバイバルウッド使用が可能となるとともに、作業路の設計においても丸太組工は採用されていることが確認できた。 ・今後は新規計画の早期把握や民間需要の掘り起こしに向けて対策を検討する。	県	
15	シイラの加工商材活用			●	A	△	加工施設については、施設改修前に前処理加工に必要な最低限な設備を漁協の自己負担で実施し、県漁協は前処理加工に取り組んでいる。今後、加工原魚確保の方法とルール(契約)の確立、加工人員の確保の点をクリアーして処理量の増大に対応しながら、年度内の施設整備の完成につなげていく。	国・総	
16	「ごめん」をブランド化 ～トライアングルゾーンの活性化～	●			C	○	事業採択の遅れ等もあり、全体的にやや遅れ気味であるが、一方で、セミナーを前倒しして順次開催することなどで、意欲ある人材の情報も得られている。農商工連携交流会は市の産業振興の鍵となる取り組みであり、立ち上げの時期と当初の構成メンバーは重要な要素であることから、翌四半期での立ち上げに向けて引き続き支援していく。【No. 3, 5, 16 同一シート】		
17	香南市コミュニティガイド事業			●	B	○	おおむね実施計画どおりに進捗している。翌四半期には、こうち商業支援事業を活用した具体的な動きが進むので、計画に大幅な遅れが生じないように支援を行っていく。	県	
18	地場産業(土佐打刃物、フラフ)の振興			●	C	○	当面の事業主体となる地域雇用創造協議会事務局とは、事務局会等を通じて意思疎通を行っており、今後とも密接に連携を図り、下半期に向け具体的な動きとなるよう支援を行っていく。		
19	観光交流のネットワークづくり(観光推進体制の確立強化)	●			C	○	事業採択の遅れ等もあり、全体的にやや遅れ気味であるが、一方で、セミナーを前倒しして順次開催することなどで、意欲ある人材の情報も得られている。農商工連携交流会は市の産業振興の鍵となる取り組みであり、立ち上げの時期と当初の構成メンバーは重要な要素であることから、翌四半期での立ち上げに向けて引き続き支援していく。		
20	歴史的資源を活用した地域活性化への取組 ～土佐のまほろば～	●			C				
21	体験観光型メニューの滞在型旅行商品化アクションプラン			●	A	○	概ね計画どおりに実施できた。旅行商品化については、他地域(安芸広域)の取り組みを参考にするなど一定の進捗があった。		

No.	項目	南 国 市	香 南 市	香 美 市	仕 分	進捗状況<上半期>		支援策導入状況	
						I 進捗度 (達成度)	II 進捗(達成)状況及び翌四半期等へ向けての対応方針	補助金	アドバイザー
22	観光交流の受け皿づくり			●	C	○	当面の事業主体となる地域雇用創造協議会事務局とは、事務局会等を通じて意思疎通を行っており、今後とも密接に連携を図り、下半期に向け具体的な動きとなるよう支援を行っていく。		

【3. 高知市地域】 地域アクションプラン進捗管理シート 総括表

No.	項目	仕分	進捗状況(上半期)		支援策導入状況	
			I 進捗度 (達成度)	II 進捗(達成)状況及び翌四半期等へ向けての対応方針	補助金	アドバイザー
1	地域の基幹品目の振興	A	◎	<1/1>現地試験を通じて、効果的な黄化エソ病対策を周知できた。また、生産者、JA、普及所が21園芸年度での課題を共有化できたので、第3四半期では22園芸年度の取り組み目標と対応策の設定と実践を支援する。 メロン新規登録薬剤の高温期での効果的な使用方法の検討・周知が図れた。今後、厳寒期での効果的な使用法の検討を行う。	県	
			○	<1/2>トマトは、黄化葉巻病防除対策の徹底により発生が抑制されたことから、22園芸年度も引き続きコナジラミ類の発生状況や薬剤防除の実施状況などを把握し、適切な対策を指導する。イチゴは、「さがほのか」の育苗管理や炭疽病の早期発見・早期防除に努めた。今後は炭疽病の被害拡大を防ぐため定植後の防除対策を徹底する。また、「さがほのか」の定植後の栽培管理を徹底する。		
			◎	<1/3>実施計画はほぼ遅滞なくできている。第3四半期は収穫・出荷期であることから、細心の注意を払いながら、計画が実行できるよう進行管理する。また、新たに課題化された加工品開発や加工原料供給体制の構築等、新たな課題へも取り組む。		
			○	<1/4>オリエンタルユリ、グロリオサとも、有利販売に向けた情報共有と高品質生産のための技術の周知ができる見込み。オリエンタルユリは、平成22園芸年度の課題を関係機関と共有できる見込み。第3四半期からは、グロリオサは平成22園芸年度の課題を共有する。オリエンタルユリ、グロリオサとも、高品質生産技術の向上に取り組む。		
			○	<1/5>稲作部会現地検討会等で生育概況・収穫の適期指導及び病害虫発生予察等を行い栽培管理の徹底を図った。 稲作部会及び展示ほ成績検討会等で、今年度の反省と次年度に向けた取り組みを行い、高品質・安定生産技術の徹底を図る。		
2	ショウガの安定供給と消費拡大	B	◎	エコシステム栽培、加工品開発など、新たな取り組みがはじまった。今後は臭化メチル代替技術の確立と併せて、新たな取り組みの着実な実践を支援する。また、貯蔵庫の事業化に向けて引き続き支援する。	県	
3	ユズを核とした中山間農業の活性化	A	○	計画通り遅滞なく推進できている。また、緊急経済対策関連事業にも関係機関が連携し対応している。 今後もユズチーム会が核となって生産組合と連携して取り組む。	国・総	
4	中山間地域の暮らしを支える集落営農の推進	A	○	集落営農組織の育成については、地域の状況や地域の意向により、進捗に多少の遅速があるが、全体的には、ほぼ計画通りの進捗状況となっている。翌四半期には、JA等との連携を強め、集落の中心となる園芸品目の確定を図っていく。	県	
5	四方竹のブランド化による中山間地域の振興	A	○	鮮度保持対策の課題が整理できたので、工業技術センターなどと連携して必要な調査を行う。また、真空パック、塩漬け、チルド保存など、出荷最盛期の出荷調整方法の検討とその労働力確保について地域と協議する必要がある。	県	

No.	項目	仕分	進捗状況(上半期)		支援策導入状況	
			I 進捗度 (達成度)	II 進捗(達成)状況及び翌四半期等へ向けての対応方針	補助金	アドバイザー
6	鏡川源流域での有機・無農薬等ECO農業と薬草の里づくり	A	◎	<1/2>有機市民農園を整備し、利用者を公募できたので、今後は効率的な運営を支援する。 高知市地域有機農業推進協議会を中心に有機農業実践者が主体となった取り組みを支援する。	国・地	
			○	<2/1>補助事業に着手することができた。また民間団体が主体となった有機農業推進協議会が設立できた。 民間団体の主体的な取り組みを促しながら、流通販売体制の検討と商品開発などを支援する。		
			○	<2/2>農家を巻き込んだ薬草導入に向けた調査、検討ができた。源流域でのECO農業推進方向について、課題整理ができ、実践が始まった。農家を主体とした取り組みを関係機関が一体となって支援する。		
7	「田舎レストラン」による地産地消の推進	B	△	都市開発審査会への申請までは順調であったが、運営主体・運営方法等について再検討が必要となった。経営規模や運営方法等に支障がないよう協議・検討を重ね、意欲ある人を核とした運営組織を結成するなど、女性部主体のレストラン構想の策定・実行を支援する。		ア
8	稲ホールクroppサイレーズを核にした耕畜連携の推進と二期作文化の復活	A	○	6月30日の耕畜連携会議で耕畜の合意を確認。8月10日 採択通知(畜産振興課へ)。今後交付申請及び事前着工手続きを踏まえ、できるだけ早期に機械を導入したい。9月15日には再生稲の収穫予定となっている。	国・総	
9	乳製品の開発による新しい酪農経営モデルの創出	A	○	アドバイザーにフードコーディネーターの大原氏を起用。将来を見据えた計画も想定しながら、2回の検討をおこなった。		ア
10	民有林における間伐の推進	A	○	<1/2>森の工場拡大に向けて現地状況の確認及び路網整備計画を関係機関の担当者と協議し設立に向け地元協議を行っている。	国	
			△	<2/2>森の工場の設定と併せたモデル事業を検討しているため、第1回検討委員会を次期半期に開催するよう計画を修正する。		
11	県産材の地域における需要拡大	A	○	治山ダムにおけるサバイバルウッド使用が可能となるとともに、作業路の設計においても丸太組工は採用されていることが確認できた。今後は新規計画の早期把握や民間需要の掘り起こしに向けて対策を検討する。	県	
12	木質バイオマスの活用に向けての取組	B	△	水産関係でのバイオマスボイラーの要望は有るが、ハウス農家でのバイオマスボイラー等の要望は見込めなくなった。 バイオマスボイラーの燃焼試験を行うための補助事業の導入は出来なかった。		
13	竹バイオマスの有効活用	B	○	国からの高知市バイオマスタウン構想の承認を受けたので、進出企業の動向を見ながら、以降の取組方針を高知市、県と協議する。 事業規模などの進出計画を検証したうえ、竹林所有者の意向調査などの作業に入る。		
14	森と海をつなぐ取替型木柵魚礁の設置	B	○	水産庁事業の制度内容等について情報収集に努めるとともに、支援チームで具体的実施内容の検討を行う。 引き続き、操業日誌の記帳継続を漁協、漁業者に働きかける。		

No.	項目	仕分	進捗状況(上半期)		支援策導入状況	
			I 進捗度 (達成度)	II 進捗(達成)状況及び翌四半期等へ向けての対応方針	補助金	アドバイザー
15	高知県漁協直販施設での鮮魚等の販売促進	A	△	県漁協の状況や取り組み方向が明らかになるにつれ、当テーマだけに集中して傾注できる状況になく、ほとんど計画を具体化することができなかった。このため当期においては県漁協事業全体に対する効果的な支援が展開されていることから、この段階が一段落するまで、周辺状況の把握等に努めることとする。	総・県	
16	底曳網による漁獲物の利用及び消費の拡大	C	◎	当期は計画の密度以上に会議が開催され、関係者で意識の統一や具体化が進められてきた。さらに民間加工業者との連携の可能性が強まりつつあり、当課題の加速化、課題自体のスケールが拡大されてきている。翌四半期はこの方向、流れをより確実なものとしていく。	国	ア
17	冷凍ドロマの販路拡大	C	◎	今期に入って急速に地元の検討スピードが上がってきた。この機運を逃すことなく具体的な取組計画を自分たちで策定できるよう支援していく。このことにより翌四半期において、順次実証検討していく支援を行っていく。		
18	こうち販路拡大チャレンジ事業の充実	B	○	スーパーマーケットトレードショーの出展事業については、県と連携を図りながら、出展企業の募集を開始した。今後も、県及び関係機関と連携しながら、下半期に向けて事業を執行する。		
19	土佐のものづくり企業による地産外商の推進	A	○	商談会開催事業及び見本市出展事業については概ね順調に推移している。また受注企業名簿作成についても、高知市の企業データの収集は進んでいる。 なお、高知県の事業の進捗が遅れており、特に受注企業名簿の発注を急ぐ必要がある。		
20	工業分野における産業政策情報の一元化による競争力の強化	B	△	受注拡大検討委員会の開催が遅れ、それに連動して各種取り組みの着手が遅れている。情報一元化のツールであるポータルサイトの早期立ち上げのためにも、ポータルサイト構築等委託業務の早期発注に努める必要がある。		
21	消費者の目から見たエコ商品の育成とブランド化	A	△	協議会の会議に参加し、事業主体であるMP委員会の体制を構築してもらうよう要請しているが、第2四半期に入っても、当委員会の体制が確立されない状況にある。引き続き協議会の会議等に参加し、速やかに体制を整えてもらい、支援対象企業への支援を検討していく。		
22	「食材王国こうち」を目指した食材タワー構想	C	○	<1/3> 県や各関連団体等の類似事業計画の調査及び調整を実施。また、高知市エリアを中心とした規模での事業性を検討。上記及び本事業の主旨を考慮した結果、県の類似事業への発展的統合とし、県と連携しながら本市食材のPR等を実現していく。		
			○	<2/3> 県が主となって実施中のものば、県・市が連携して推進していく。その他の事業については、順次検討していく。		
			△	<3/3> 高知商工会議所と新市場開拓事業の実現について確認していく。		
23	環境に優しい低炭素なまちづくりを目指した「環境維新」	C	○	法令、各種制度の調査や企業訪問を行い実態把握は行っている。今後も引き続き情報収集等を行い、情報提供やPR等の今後の事業展開の方法を明確化していく必要がある。		
24	コンテンツビジネスの創出	B	○	国事業の採択や新しい事業への申請支援等、計画内容は概ね達成できた。クリエイター実態調査を基に、次年度計画を立てるとともに、四経局事業によるビジネスモデル創出に向け取り組んでいく。	国	

No.	項目	仕分	進捗状況〈上半期〉		支援策導入状況	
			I 進捗度 (達成度)	II 進捗(達成)状況及び翌四半期等へ向けての対応方針	補助金	アドバイザー
25	おかみさん市の拡充	A	○	事業主体となる商業者と出店ルールを作成し、新規出店希望者の募集を開始した。		
26	中心商店街でのアンテナショップの開設	B	○	「地域商店街活性化法」が施行。関係機関と情報交換し、支援策の協議を進めている。	国・県	
27	安心・安全・快適な商店街づくり	B	○	1、「杏番街アーケード改修工事」は、計画通り進捗している。 2、「エコバッグ事業」は、製作した「土佐バッグ」が好評で追加販売にも取り組んでいる。よさこい鳴子踊りと同様に県外にも発信できる。	国	
28	中心市街地における商業、観光等の基盤強化による都市機能の増進及び経済活力の向上	C	-	高知市において、現在計画策定に向けて取り組みを進めている。		
29	体験型観光推進のための組織づくり	B	△	高知中央広域市町村圏事務組合の枠組みを超えた市町村を招集し、観光圏の勉強会を実施することとする。については、下準備に時間を要するため勉強会の開催を10月に遅らせることとする。		
30	「よさこい」を通じた観光客の誘致と「よさこい」ブランドの確立	A	△	<1/2>実施に向けた課題整理等に着手。10月末までを目途に結論出しを行う。		
			○	<2/2>デザインコンテストで賞をとった鳴子の商品化に向けた検討を行う予定で、よさこい「ブランド」に前向きに取り組んでいる。		
31	映画を通じた「よさこい」発祥の地としてのアピールと観光客の誘致	B	○	高知市と県との協議の結果、新たなフィルムコミッションの取組の一環として、観光振興部の観光産業振興事業費補助金を適用し、高知ロケに対する経費について支援を行うこととした。	県	
32	観光情報の集約と情報発信力の強化	A	○	掲載企業の目処が立ったため、webマガジン「旅色」の制作に着手する。	県	
33	「エンジン01オープンカレッジin高知」の開催を契機とした交流人口の拡大	A	○	本番に向けて徐々に準備が進んでいる。市町村担当者あてにウェルカムパーティー、講師控え室、謝礼箱、物産展においてPRしたい物産がないかアンケート調査を実施し、20市町村からPRしたい物産について具体的な提案があった。これを軸に本番までに内容、品数を充実させていく。また、エンジン01終了後、「土佐のおきやく」に引き継いで行く方向性が示された。	県 ※負担金	
34	温泉開発による観光地としての魅力の向上	C	○	高知市旅館ホテル温泉協同組合が温泉設備導入に向けて調査研究、基本計画策定についてコンサルタント会社に委託。官民の関係者で構成する観光開発ビジョン策定プロジェクト推進委員会で温泉設備導入に向けて検討を進めている。	県	
35	「龍馬伝」を契機とした観光の振興	A	○	坂本龍馬ゆかりの史跡巡りを中心に新たなまち歩きコースについて、マップが完成。高知市観光遊覧船についても、団体客受け入れのための3隻目の購入など、その運営体制について県市連携して支援を行う。		
36	アユ群れる清流鏡川などの天然素材を活かした観光客の誘致	A	○	8月に「漁業体験エコツアーin浦戸湾」を参加者21名で実施。高知市観光課、観光協会の担当職員も同席。観光サイドとも連携した取組ができている。	国	

No.	項目	仕分	進捗状況<上半期>		支援策導入状況	
			I 進捗度 (達成度)	II 進捗(達成)状況及び翌四半期等へ向けての対応方針	補助金	アドバイザー
37	食による観光の推進と地域物産との連携	A	○	<1/2>高知市とNPO法人「高知の食を考える会」の主催で、7月25日から「高知B級グルメ維新！テーマ:高知の名物麺、名物丼」と称して、高知が誇るニラ、ナス、しょうが、みょうが、ししとう、ゆず、シラスの食材を1種類以上使用した麺類又は丼の新名物料理のアイデア募集を開始した(〆切9/30)	国	
		○	<2/2>県外産の箸は、高知商業との共同製作で、主に高知商業が販売先の確保等に取り組んでおり、はりまや橋商店街は県外や海外へのお土産としての需要がある。県内産の箸は、県内の企業(小高坂更生センター)に製作を依頼し、8月に試作品が完成、箸袋も県内産を使用するなど県の進める地産外商政策にも合致しており、新しい高知の名産品として期待できる。			

【4. 嶺北地域】地域アクションプラン進捗管理シート 総括表

No.	項目	本 山 町	大 豊 町	土 佐 町	大 川 村	仕 分	進捗状況(上半期)		支援策導入状況	
							I 進捗度 (達成度)	II 進捗(達成)状況及び翌四半期等へ向けての対応方針	補助金	アド バイ ザー
1	れいほくブランドの園芸産地の確立とユズの加工拠点づくり	●	●	●	●	A	○	<八菜>現地検討会、目慣らし会などほぼ計画どおりに行うことができた。枝葉の繁茂時期への整枝剪定指導など基礎技術を徹底させるとともに、IPMや高温対策などについての地域を超えた交流会などを通し高度な技術の確立を目指して取り組んだ結果、その技術は生産者に定着しつつある。下半期は、土づくりなどの基礎技術の徹底を図っていく。	総	
							○	<八花>球根増殖と実証ほの調査等計画どおりに取り組み、球根サイズによる切り花品質の違い等の課題を把握できた。今後、再度実証ほの調査を行い、ノーブルの栽培技術の確立を進めていく。		
							○	<八恵>生育調査、販売促進活動は、計画どおりに実施できおり、下半期も計画に沿って取り組んでいく。 ユズ加工場施設は、中四国農政局での協議内容を踏まえ、関係機関で今後の取組方針やスケジュールを検討していく。		
							○	<販売戦略>coopかがわ宇多津店での販売拠点づくりについては、順調に進んでおり、他店舗での「れいほくコーナー」設置の動きも出ている。直販システムについては準備を進めており、今後、実務者担当者会や運営委員会を通し、システム構築・充実に向け取り組んでいく。出荷農産物の充実については、各地区で栽培研修会を行った。今後は、その効果が表れるように継続した取り組みを行っていく。		
2	集落営農で元気な地域づくり	●	●	●	●	A	○	<吉延>計画どおり進捗した。集落営農ビジョンに掲げる生産基盤整備として、動噴機・耕作道の導入計画を作成し決定した。また、視察や講演会などの研修の場を設けるなどソフト事業を導入し、合意形成や動機づけの場を設けることができた。園芸の取組みも概ね計画どおり進捗している。後期は、レンタルハウスやミニライセンターの整備について事業効果の高い計画が作成できるよう、役員会の場等を通じて担い手に対し意識づけを図る。	県	
							○	<伊勢川>前期の実施計画に基づき計画どおり進捗した。集落リーダーや担い手を中心に推進体制の整備ができた。また、定期的に推進委員会を開催し、情報提供や集落営農ビジョン作成に向けて意見交換を行い、参加者の動機づけや合意形成が得られ、園芸実証の実施や直販加工研修会など具体的な活動がすすんでいる。後期は、来年以降の具体的な活動につながるよう、集落の行動計画を営農計画、集落営農ビジョンとしてまとめていくこととなる。このことに向け、今後、目標をより具体化し共通認識されるまで、動機づけを工夫しながら話し合いを重ねていく。		
							○	<一般>各地域の推進組織は、2地域で立ち上がり、1地域は10～11月に立ち上がる見込みとなっている。実態意向調査・分析が遅れぎみとなった地域もあるが、概ね合意形成もできている。後期は、集落実態意向調査の分析をふまえ、年間活動計画、活動方向を具体化して集落営農ビジョンを作成する。		
3	米粉を活用したビジネスの展開	●	●	●		A	○	【進捗状況】・・・米粉製造は軌道に乗つつある。中華麺やうどんなど新商品の開発も進んでおり、冷凍うどんは本格販売を開始。また、集荷場や冷凍車などハード面の整備もほぼ計画どおりの進捗。 【今後の対応】・・・米粉の里活性化協議会による「米粉の里構想」の実現に向けた取り組みとともに、県内外での販路拡大に向けた魅力ある商品開発やより一層の消費者等へのPRを実施。関西エリアのマーケティングを踏まえた販路拡大の取組を実施。	総	

No.	項目	本 山 町	大 豊 町	土 佐 町	大 川 村	仕 分	進捗状況(上半期)		支援策導入状況	
							I 進捗度 (達成度)	II 進捗(達成)状況及び翌四半期等へ向けての対応方針	補助金	アドバ イザー
4	米のブランド化による稲作農業の展開	●				A	◎	ライセンスターの施設整備のハード事業、生き物探検隊・エコファーマー等のソフト事業ともに、ほぼ計画どおりに進んでいる。ブランド名を「土佐天空の郷」として商標登録申請を行った。花キラリ特約店説明会への参加により、流通業者に「土佐天空の郷」をPRすることができ、当初の予定より早く販売促進活動を進めることができています。翌四半期は、PR販売・営業活動を重点的に行い、有利販売につなげていく。	総	
5	榑大豊ゆとりファームを核とする碁石茶等の地域資源を活用した産業再生への取組		●			A	○	<遊休農地>農作業の受委託、碁石茶の製造、各種機器機材の導入、整備は概ね計画どおり進んでいる。今後も碁石茶生産組合の法人化、農作業受委託等の円滑な取り組みに向けて進捗を図っていく。	総・国	
							○	<地産地消>新たな販売拠点の開拓、農産物の時期別品目、数量確保に向けた調査活動は、概ね計画どおりに進んでいる。今後、調査結果を踏まえて、具体的な生産体制、配送集荷システムの検討・整備などに取り組んでいく。		
							○	<加工品づくり>加工品づくりの具体的な動きが、やや遅れているが、2-四半期には加工品開発等を発注予定である。実行支援チーム会を開催するなど、大きく遅れの出ないように取り組んでいく。碁石茶の販売促進については、積極的に取り組んでおり、事業展開が進んでいる。今後とも、販売促進活動を継続していく。		
							△	<ふるさと支援>ふるさと応援団、体験メニューづくりは、ほぼ計画どおりに進んでいる。ネット直販システムの進捗がやや遅れていることから、実行支援チームによる支援を強化するなど進捗を図っていく。		
6	肉用牛飼育の競争力の確保による肉用牛産業の再興	●	●	●		B	○	土佐褐毛牛販売協議会により、販売チャンネルを広げる取り組みの気運も盛り上がりつつある。公営牧場の場所については、選定作業を進めているが、まだ決まっていない。今後、関係者の協力も得ながら新しい候補地を含めて検討していく。		
7	大川黒牛の再興による地域の活性化					B	△	和牛生産組合の解散と、解散後に新たな受け皿となる組織についての検討が遅れ気味となっている。村は和牛の振興を図ることとしており、関係者が協議のうえ、今後の和牛振興に向けた方向性を早期に決定する必要がある。		
8	土佐はちきん地鶏を活用した新しい産業の展開					A	○	孵化、飼育は当初計画どおりにできている。施設整備については、一部を除き産業振興総合支援事業の採択を受け、整備が可能となった。今後は、生産計画に沿うよう育成舎等の施設整備を早期に行い、生産体制を整えていく。	総	
9	間伐推進と木材増産による林業振興	●	●	●	●	A	○	各町村ごとの連絡会にて、①森の工場設置に向けた共同事業体の推進 ②作業路開設に向けた建設業との連携 ③人材育成に向けた事業体の連携 ④町村広報等による間伐の働きかけ等の課題への対応方針が検討できた。森の工場の推進については、新たに3箇所の掘り起こしができた。今後、課題事項について、関係事業体と調整を図りながら、現年度事業の掘り起こしと、次年度への予算要望に対する積極的な取り組みを検討する。		
10	「れいほくスケルトン」の性能向上及び販売促進	●	●	●	●	A	○	普及・PRが遅れ気味であるが、経済状況が不安定な中、販売促進・発注は順調である。9月にはふるさと雇用再生特別基金事業により、1名営業等の担当者を雇用することとしており、担当者の活用により、3-四半期は、より普及・PRを充実していく。また、床パネル等の構造部性能向上の取り組みについては、森林技術センター、木材産業課と連携して進めていく。		

No.	項目	本 山 町	大 豊 町	土 佐 町	大 川 村	仕 分	進捗状況(上半期)		支援策導入状況	
							I 進捗度 (達成度)	II 進捗(達成)状況及び翌四半期等へ向けての対応方針	補助金	アドバイザー
11	県産材の地域における率先利用	●	●	●	●	A	○	木づかい促進事業活用による学校への木製品の導入は予定どおり終了。林地残材活用促進協議会は計画どおり検討を重ねてきた。今後は、加工施設の設置等の話もあり、その動向をみながら検討していく。		
12	木工製品の製造・販売による地域の活性化	●	●	●	●	A	○	(ばうむ)2-四半期に法人化、ショップのオープン、ホームページ開設、営業ツール等の整備など計画どおり進んでいる。次半期は、これをベースに営業・商品開発に注力していくこととする。 (大豊町森林組合)小枝ビジネスの新たな展開に向け、産業振興センターの事業を活用して、ビジネスの総合的なアドバイザーを導入した。今後は、その内容を踏まえ、新たな事業展開に向けた取り組みを検討していく。	国	他
13	特用林産物(シキミ、サカキ)の拠点づくり	●	●	●	●	B	○	本山町をモデル地域として取り組んでいくことで意思統一がなされた。下半期は、モデル地域における勉強会を重ね、出荷、東ね方の研修、施設整備の検討を行うとともに、他の地域や生産者を巻き込む取り組みを行っていく。		
14	大型製材工場の誘致による地域材の利用の促進		●			A	○	引き続き、誘致先の情報収集を行うと共に、関係機関との情報の共有化を図っていく。		
15	地域産品販売ポータルサイトによる商業展開・情報発信	●	●	●	●	A	○	フレームの作成、サイト運営者の決定、サイト素材の掘り起こしなどホームページ開設の準備が整った。下半期は、サイトを開設し、アクセスと注文数が多い魅力あるサイトとするようフレームの改善や素材の発掘に継続して取り組んでいく。		
16	土佐産直サテライトセンター(とさ千里(大阪))の活性化による地産外商の拠点づくり			●		A	○	経営戦略の原案策定は、まだ時間を要する見込みであるが、課題項目の共有はできており、遅くとも年度内を目途に整理を完了する見込み。実行支援チーム会を開催し、検討を継続していく。	総	
17	嶺北地域の連携による交流人口の拡大	●	●	●	●	B	○	4町村の連携の必要性や諸課題の共通認識ができた。次期は、具体的な今後の取組に関して検討を進めていく。その足がかりとして、まず嶺北地域の観光パンフレット作成の取組を行っていく。		
18	濁酒を活用した地域資源との連携による地域の活性化		●			B	○	取組の具体化に向け、研修会への参加や実行支援チーム会での課題整理に取り組んできている。事業の具体化には、まだ時間を要するが、下半期は地元関係者の窓口である大豊町と課題への対応も含め連携して取り組み、今後の地域全体の取組の方向性を整理し、進めていく。		

【5. 仁淀川地域】 地域アクションプラン進捗管理シート 総括表

No.	項目	土佐市	いの町	仁淀川町	佐川町	越知町	日高村	仕分	進捗状況(上半期)		支援策導入状況	
									I 進捗度(達成度)	II 進捗(達成)状況及び翌四半期等へ向けての対応方針	補助金	アドバイザー
1	地域の基幹品目及び推進品目等の産地の維持・発展	●	●					A	○	平成21年度農山村活性化プロジェクト交付金事業計画書を提出(7/24 中四国農政局→7/27 農水省)、8/13に内示が得られた。 これにより、産業振興推進総合補助金活用に向け検討・計画書の作成を支援する。	国	
2	土佐文旦の加工	●						C	◎	・県内酒造会社との取り引きをおこなうことが決定した。(100円/kg) ・チーム会において総合補助金を活用し搾汁設備を整備することが合意された。(県内酒造会社へ) ・付加価値を高める加工品の取り組みスケジュールを確認した。		
3	地域の特産品開発(本川じゃがいも)		●					C	○	市場調査を本川じゃがいも収穫祭で、バイヤーと購入者を対象に実施し、商品の評価やアンケート調査を計画どおり実施。今後は、生産量拡大に向けて、本川地区内での新規栽培者把握のため、アンケート調査の実施と新たな販路(地産外消)開拓に向けて、食品バイヤーと協議する。		
4	集落営農の推進		●					A	○	・概ね予定通りに進捗している。 ・協業の取り組みとして「園芸部門」の立ち上げが予定されている。	県	
5	新高梨の加工		●					B	○	・いの町内酒造会社との協議により、新たに2t 100円/kg=20万円で取り組むことを決定した。 ・今後、シャーベット作りと酒造会社への具体の供給方法を検討する必要がある。		
6	本川キジの販路確保と新たな商品開発		●					A	△	市場調査に関するアドバイザー事業は未達成であるが、今後パッケージデザインと合わせて顧客ニーズ調査も実施する。	総	
7	給食への食材提供(安定的な出荷先の確保)		●					B	○	・学校教育課との連携によりショウガの出前授業を実施することが決定した。 ・JAとの連携により、地域食材の地元割合の調査をすることができた。		
8	仁淀川流域茶のブランド化を主体とした茶の振興		●	●	●	●	●	A	○	仁淀川流域茶の品質向上に向けた試飲会や販促活動を行った。産業振興推進総合支援事業費を活用し、イベント等で活用できるようポスター、パンフ等の販促資材の作成を始める。	総	
9	薬用作物の産地拡大による所得の向上			●	●	●	●	A	○	実証圃の定期的な抑草管理等を実施し、栽培可能な圃場拡大に必要な条件を探る。		
10	力強い高糖度トマト産地の確立			●	●		●	A	○	年間活動計画に基づく取り組みに加え、加工品の試作にも取り組み始めた。しかしトマトの単価は近年急速に下落しており、生産者個々の経営は厳しくなっているため、販売戦略や経営計画立案が困難になっている。	総	
11	地域を支える基幹品目の振興				●	●	●	A	○	毎月のチーム会等を通じて、加工に向けて貯蔵施設や加工品について検討を行っている。		
12	集落営農による地域にあった農業の仕組みづくりの推進				●			A	○	関係機関との連携により、基盤整備事業の導入や園芸品目の共同栽培への取り組みが予定どおり進んでいる。遅れている機械の共同利用・農作業受委託・農地利用現況把握・稲作推進方策の検討については、組織体制を固める取り組みを優先させるようにする。		

No.	項目	土佐市	いの町	仁淀川町	佐川町	越知町	日高村	仕分	進捗状況(上半期)		支援策導入状況	
									I 進捗度(達成度)	II 進捗(達成)状況及び翌四半期等へ向けての対応方針	補助金	アドバイザー
13	食育の推進を通じた地元産品の販売促進				●			C	○	地産地消協議会が食育活動の主な活動母体であるが事務局が観光行事等で忙しく活動につながらなかった。予定外の佐川小学校でのお茶の食育が関連事業導入も伴い計画ができた。秋の行事までにおくれをとりもどすように検討をしていく。また、地域の女性組織が活発になった。		
14	間伐の推進	●	●	●	●	●	●	A	◎	既設5工場の事業実施を指導中。新規工場については、計画より多く樹立出来る見込み(1→3)である。今後は、計画に基づく事業実施を支援していく。		
15	棚ソニアを核とする仁淀川流域における木材産業の振興	●	●	●	●	●	●	B	○	調査項目の決定等は予定より1月遅れの実行となっているが、調査期間は実施計画にそって実行する見込みである。		
16	県産材の地域における需要拡大	●	●	●	●	●	●	A	△	一定、各市町村の公共建築および工事に係る県産材使用についての状況をつかむことができた。今後はこうした取り組みを踏まえ、地域推進会議を開催すべきところであるが、県産材利用推進本部会議の開催が遅れているため、実施計画どおりの時期に開催できなかった。		
17	シキミ・サカキの販売拡大			●				A	△	栽培指針は計画どおり作成したが、生産者台帳の整備やアンケート調査回収、現地視察については、出荷時期と重なるため、10月以降に変更して実施することになった。		
18	うるめのブランド化	●						B	○	鮮魚販売、加工品づくりともに実施体制に入ることができた。翌四半期以降については、加工品の試作品製作、マーケティング活動を進めるとともに、鮮度試験、鮮度保持のしくみづくりを進めていく。	総	他
19	「土佐和紙」の販売促進	●	●					B	○	「トリエンナーレ展を活用した販路の拡大」について、トリエンナーレ展幹事会の中で検討をすすめる		ア
20	高岡日曜市の活性化などによる地域商業の振興	●						B	○	実施団体と協議。今後、実施方法等について細部を協議していく必要がある。		
21	棚フードプランの地域商社化への取組			●				A	△	補助事業への再チャレンジに時間を要したことにより、町の予算措置が9月補正となるため、事業の着手が遅延している。	総	
22	売れる商品づくりによる地産外商の推進				●			B	△	マーケティングや販路など、産業振興アドバイザーとの協議に時間を要し、遅延している。		ア
23	水熱を利用した事業の展開による新産業の創出				●			C	○	共同研究・調査等について概ね計画通り進捗している。		
24	JRバス越知駅跡地を活用した中心市街地の活性化					●		A	○	建物建設にかかる設計に必要な利用計画や事業内容等について実行委員会での協議を重ねることにより固まってきており、その中で、実施主体についても当初の理想とする形とは異なるが、観光協会を運営の母体として、関係機関が協力して運営に携わる形が見えてきつつある。今後も運営部会での詳細な運営形態の協議を踏まえ、実行委員会での検討を継続していく必要がある。施設オープン時期から逆算していった際の建設工事への着工のタイミングを十分に見極めることも必要。(産業振興推進総合支援事業費補助金の採択後の早期着工)	総	

No.	項目	土佐市	いの町	仁淀川町	佐川町	越知町	日高村	仕分	進捗状況(上半期)		支援策導入状況	
									I 進捗度(達成度)	II 進捗(達成)状況及び翌四半期等へ向けての対応方針	補助金	アドバイザー
25	企業進出による雇用の増と地元企業の活性化						●	B	○	実施計画どおりに企業訪問活動等を実施できた。具体的な動きとして村内企業の食品会社の設備投資の計画が出てきたことから産振補助金申請への支援を行う。		
26	体験型観光・食観光の推進	●						B	○	観光メニュー・商品づくりの実践に入った状況。各項目のブラッシュアップ及び各項目をつなげての商品づくりを進めていく。		
27	体験型観光メニューづくり		●					B	○	○高知県観光産業振興事業費補助金の補助決定予定。 ○「体験型観光メニュー整理票」により把握した個別メニューをもとに、いの町全体を売り出す方法についてアドバイザーを交えて検討を進める		
28	「仁淀川」での遊覧船(屋形船)の運航		●					B				
29	「グリーンパークほどの」の多面的な活用		●					B	○	9月には業務発注予定。下半期実施に向け、より具体的な事業計画の作成を進める。	総	
30	「山荘しらす」と「町道瓶ヶ森線」を活用した交流人口の拡大		●					B	○	実施に向け、関係機関と連携し、計画どおりに取り組んでいる。今後は、結果の検証と来年度実施に向けた計画づくりに専門家の意見を聴きながら進める。		
31	仁淀川流域を中心としたジオパークへの取組による交流人口の拡大			●	●	●	●	B	○	担当者レベルで取り組みを協議する体制(担当課長会)を整え、概ね計画どおり進捗している。引き続き、実施計画に基づき実行していく。		
32	観光情報のコーディネートと情報発信拠点の設置			●				B	△	町内の各観光団体のブラッシュアップは一定進んだが、クラスター化観光のモデル実施が十分に実施できない。理由として特徴あるニーズに合ったプランが十分に煮詰められず、夏期は関係団体も多忙であり、内容の検討と調整が難しい状況がある。年間を通した総合的なコンセプトと具体的にユニークかつ、ここ仁淀川町でしか味わえないプラン(遊び+食+宿泊+五感+ユニークさ)を検討する必要がある。		
33	歴史的風致維持向上計画の推進				●			B	○	ハード事業・ソフト事業ともに概ね計画どおり進捗しており、引き続き、実施計画に基づき実行していく。		
34	地域資源を活用した交流・体験型観光の体制及びメニューづくり					●		B	○	上半期は、地域観光資源の洗い出しや強み弱みの整理などの基本情報整理を行い、具体的な観光推進の方針づくりは越知駅の整備・実行委員会の検討状況に合わせて進めていく。観光情報発信拠点としての越知駅を核とした観光推進の方針を全体プランとして検討・整理していく必要がある。		
35	国宝と体験型観光による交流人口の増と地域の活性化						●	B	○	時間を要したが、アドバイザー等と事業の進め方などについての検討が進んだ。今後は、アドバイザー制度による専門家の派遣を受け、観光資源の洗い出しなど具体的な作業に入っていく。		ア

【6. 高幡地域】 地域アクションプラン進捗管理シート 総括表

No.	項目	須崎市	中土佐町	橋原町	津野町	四万十町	仕分	進捗状況(上半期)		支援策導入状況	
								I 進捗度(達成度)	II 進捗(達成)状況及び翌四半期等へ向けての対応方針	補助金	アドバイザー
1	園芸品目等の地域基幹品目の振興	●	●		●		A	○	上半期を通じてほぼ計画通り進捗している。第3四半期は平成22園芸年度の開始時期であり、21園芸年度の結果を振り返りながら主要品目の収量・品質の向上をめざして計画を推進する。	県	
2	施設園芸の加温での木質バイオマスの利活用推進	●	●		●	●	B	○	上半期が終わって薪ボイラーの現場への導入は困難と判断した。データ取りだけになる。県域では、ペレット暖房について動きが見られ、須崎管内でも、どうするのか方向性を決める必要があり、県木材産業課、須崎市役所、JAくろしお経済課、林業事務所に働きかけ協議会を設定し、事業導入の検討を再度働きかけ、ペレット暖房への関心を喚起することができた。今後は、さらにJA、市に対して働きかけを行い検討させる。		
3	まとまりのある産地づくりと農家の所得向上			●	●		A	○	・上半期を通じて「点検シートその2」による安全・安心への取り組みを開始することができた。 ・第3四半期も「生産技術の向上」に重心をおいて行動計画の推進に取り組む。	県	
4	大野見米のブランド化		●				C	○	上半期では特別栽培米指針策定が実証ほを活用して実行支援チーム、指向農家により行い指針策定の見通しがついた。 第3四半期は、特別栽培米指針の策定及び集荷、販売の素案づくりを行う。		
5	こうち型集落営農の推進				●		A	○	上半期では「芳生野百石営農生産組合」が設立し、園芸施設整備の準備が順調に進んでいる。水稲作業、ショウガ栽培は概ね順調である。 第3四半期は、園芸施設整備や各品目の収穫・実績検証等への支援を行い、あわせて、研修等を通じた役員の経営管理能力向上を進める。	県	
6	基幹品目及び推進品目等の維持・発展による地域農業の活性化					●	A	○	上半期においては取り組み内容5項目について、JA部会などの活動計画により概ね計画どおりに進んでいる。 3-4半期以降は実行支援チーム会や関係機関の支援を通して進捗状況を確認し、今後の計画を推進する。	国・県	
7	地消地産推進プロジェクト					●	A	○	上半期においてはJA四万十やみどり市等の食材提供体制が進捗し、給食への食材提供体制は概ねできた。 3-4半期以降は野菜栽培の拡大、加工品開発を推進する。	県	
8	農大跡地の活用					●	A	○	上半期において、地元の住民参加の「四万十町滞在型市民農園整備促進協議会」が主体となって事業を進めていくこととなり、建設工事の設計監理業者が決定し、事業設計が一定進んだ。 3-4半期は、施設整備とともに、運営管理に向けた取り組みを推進する。	県	ア
9	森の工場の推進	●	●	●	●	●	A	○	上半期において、既設「森の工場」11団地の内9団地で事業が着手され、基盤整備作業道については全体計画28,600mの34%9,700mの開設となっている。また間伐施業については全体計画量199.7haのうち5.0%10.0haの整備となっている。また新規の森の工場では認定に向けた予備調査が開始された。第3四半期に向けて労働災害等の指導に重点を置き各事業体への巡回を実施する。	国・県	

No.	項目	須崎市	中土佐町	橋原町	津野町	四万十町	仕分	進捗状況(上半期)		支援策導入状況	
								I 進捗度(達成度)	II 進捗(達成)状況及び翌四半期等へ向けての対応方針	補助金	アドバイザー
10	FSC認証住宅の促進			●			A	○	上半期において、営業活動70日、伐採祈願祭の5棟が確定するなど、計画予定通りの進捗である。また産業振興アドバイザー制度を活用した講演会が開催されて、今後の橋原町産材の販売拡大に向けた取り組みの機運が高まっている。第3四半期に向け、今後も講演会及び顔の見える家づくり事業を開催して販路拡大に努める。	県	ア
11	木質バイオマスの推進			●			A	○	上半期では事業推進の会議が開催され、目標値(1800トン)の8割程度は確保されることが判明し、取引先拡充の検討を行った。第3四半期に向けても計画に基づく数値に到達するよう木質ペレットの販売拡大に努める。	県	
12	協働の森づくり事業の推進・拡充			●			C	○	上半期の実績として、先進企業との再協定に向けた取り組みが始まり、協賛金の活用方法も検討されている。第3四半期に向けて事業計画書の作成・協議を図っていく。		
13	森林セラピー推進による地域活性化			●			C	○	上半期において、ガイド養成や橋原町によるこうち山の日推進事業の申請により本格的な実施計画がまとまり、森林セラピーモデル事業に向けて地域の役割分担が明確になるなど、計画どおりの進捗であった。第3四半期に向け森林セラピーモデル事業の検証のための連絡、調整を図っていく。	国	ア
14	あったかハウス協同組合木造住宅販売促進				●		C	○	上半期では月1回の定例会において、あったかハウスの課題等が会員の中で確認され、課題解決に向けた検討がされている。第3四半期に向け、ホームページの搭載や顧客に対するアンケート調査の準備を会員全員で取り組むこととしている。		
15	循環型の森づくり					●	A	○	上半期において、キリンビールとの協定継続が完了したこと、SGEC認証の更新審査のための準備が始まったこと、また、町内6件目の協働の森づくり事業締結等が決定した。第3四半期に向けたFSC認証化の取り組みにおいて大正町森林組合との連絡・調整が必要となっている。		
16	四万十町シイタケ生産拡大事業					●	B	○	上半期において、計画どおりに各地域のシイタケ生産者研究会が立ち上がった。3-4半期以降においては、各地域の特色を生かした生産者研究会での今後の取り組みを検討する。	国	
17	高樺ヒノキ等の加工・流通・販売					●	C	△	上半期において高樺ヒノキ等の加工、流通販売のため高樺木材センターに新規設備の導入を計画したが、諸事情により計画を断念した。しかし四万十町としても高樺木材センターは重要な地場産業であるため今後の支援を検討する。第3四半期に向け、既存の施設による製材品の品質確保に努め、製品販売価格の維持を図っていく。		
18	クマエビを中心とした栽培漁業の推進並びに藻場造成	●					B	△	・上半期において、クマエビは種苗生産が不調に終わり、計画した調査ができなかったが、小底漁業者の意識を高めるため学習会を実施する。3-4半期以降は遅れて生産された種苗に標識し、認識期間の確認をすること、市場調査のとりまとめを行う。 ・上半期において、藻場は久通地区でウニ駆除を実施した。3-4半期以降は、池ノ浦地区で交付決定後同作業を実施していく。		
19	須崎の魚による地域産業の振興	●					C	△	上半期では久通・池ノ浦地区の推進体制の構築や活動組織づくりが不調に終わった。現在、具体的にどう取り組んでいくかの整理と推進母体づくりに向けた協議を進めており、3-4半期以降は女性活動グループの推進体制づくりに向けて関係者との協議を進める。また、「須崎の魚祭り」の充実強化のための財源確保に向けて、関係者との協議を進める。		ア

No.	項目	須崎市	中土佐町	橋原町	津野町	四万十町	仕分	進捗状況(上半期)		支援策導入状況	
								I 進捗度(達成度)	II 進捗(達成)状況及び翌四半期等へ向けての対応方針	補助金	アドバイザー
20	ハモの加工・販売		●				C	△	上半期においては、関係者を集めての協議が十分に進まなかった。今期のハモ漁が低調なことに加え、関係者が注目を集めて動き出しているスラリーアイスの実証対象にハモが位置づけられていることなどから、「ハモの加工販売」に対する関心の高まりもなかったことから、7月の実施計画の「問題課題の整理と取組方向の確認」については達成することができなかった。 以上のことから、翌四半期以降はスラリーアイスの実証の中でハモの加工流通に関する検討の場を提供していくこととする。		
21	ウルメの加工・販売		●				C	△	上半期においては関係者を集めての協議が十分に進まなかった。関係者の注目を集めているスラリーアイスの実証対象にウルメが位置づけられていることなど、「ウルメの加工販売」に対する関心の高まりが少なく、7月の実施計画における「問題課題の整理と取組方向の確認」については達成することができなかった。 以上のことから翌四半期以降はスラリーアイスの実証の中でウルメの加工流通に関する検討の場を提供していくこととする。		
22	スラリーアイスを活用した魚価向上対策		●				B	○	上半期においては、産振支援総合補助金の交付決定までに想定以上の期間を要したが、実証実験施設の建設に着手することができた。 3-4半期において施設完成後は早期に1回目の実験を行う。	総	
23	シイラを柱とした水産加工業の創設					●	A	◎	上半期においては、計画では想定できなかった現実に対して、計画以上に前向きに取り組んできている。この結果から今までに分からなかったことが明らかとなっており、翌四半期ではこれらの結果を丁寧に分析・試算した結果を提供することにより、マヒマヒ丸の早期経営確立に貢献していく。	総	ア
24	南北道路を活用した商業・観光の振興	●					C	△	上半期において市内関係課による調整は開始されているが、南北道路活用検討組織の設立に至っていない。 下半期に向けては、まずは市内関係課の調整を促進し、検討組織の設立につなげていく。		
25	須崎市まち全域がサービスエリア構想推進事業	●					A	○	上半期において、ボランティア募集は難航しているものの、鮮魚販売施設整備については、ほぼ計画通り進んでいる。 下半期以降は、平成23年度までのSAT構想実現に向けて、さらに一体感を持ち、事業展開できるようにしていく。	国	
26	大正町商店街空き店舗活用事業		●				A	○	上半期において、賃貸可能な空き店舗調査を実施した。 下半期においては、町が策定した支援策を広報し、出店希望者の掘り起こしを行う。		
27	久礼新港背後地利用計画		●				B	○	上半期においては、背後地利用活用計画の推進のためのテストイベント(9/26)のための住民合意を図り、イベントを支援した。 下半期はイベントにより収集された情報や反省点なども参考にしながら市内PTIによる検討を進める。		ア
28	「かつお」まるごと商品開発プロジェクト		●				A	△	上半期において、∞事業は予定通りの進捗が見られるが、実店舗の出店計画については、収支計画・事業計画策定の遅れが見られる。 下半期においては、具体的な店舗の設計に入り、店舗の開店時期を第4四半期に延期して年度内の開業を目指す。	国	

No.	項目	須 崎 市	中 土 佐 町	橋 原 町	津 野 町	四 万 十 町	仕 分	進捗状況(上半期)		支援策導入状況	
								I 進捗度 (達成度)	II 進捗(達成)状況及び翌四半期等へ向けての対応方針	補助金	アドバイザー
29	町内事業所の活性化			●			C	○	半期において、事業の関係者(商工会、JA、町、県)の話し合いの場としてのワーキングを毎月開催し、事業の進捗を図っている。 翌四半期においては、町内事業者の意見や要望を反映した研修会が実施できるようワーキングで内容を協議し、進捗をすすめていく。	国	
30	地場製品の販売促進			●			C	○	上半期において、コーディネーターの助言も受けながら特産部会や商工会内で地場製品の洗い出しをすすめた。さらに鷹取キムチ実行委員会やJA津野山等、売れる特産品開発に向けた各々の取り組みが活発化してきた。 第3四半期において、お土産品の開発に向けた目新しい商品の意見集約を行い、商品化を行っていく。	国	
31	地産地消の推進			●			C	○	上半期において、関係者(商工会、JA、町、県)の話し合いの場としてのワーキングを毎月開催するように実施している。JAが農産物出荷システムや地産地消をすすめていく専任の営農指導員を雇用し、福祉施設や小中学校の給食に地場産品を提案していくことを始め、まず個々の農家との話し合いを進めており、現時点では現状の状況把握に力を注いでいる。 3-4四半期において、どこまで進めていくかの目標設定の話し合いにより地産地消の進捗を向上させていく。	国	
32	拠点ビジネスの推進				●		A	○	上半期においては、予定された事業もスケジュールを見直しながら遅れを取り戻し、順調に進捗している。 第3四半期では、地域アクションプランのスケジュール修正を視野に入れた高知アンテナショップ新店舗の設置検討や他事業の活用に向けて調整が必要となる。	総	ア
33	都市部へのアンテナショップの創設					●	A	△	上半期においては、推進協議会の生産流通部会が9月にずれ込み、協議などの進捗が遅れている。 3-4半期に向け、役場・事業主体が連携してできるだけ早くアンテナショップの場所や方式の決定をするよう支援していく。	総	ア
34	拠点ビジネス体制の構築					●	A	○	上半期において推進協議会を立ち上げ事業進捗を行っている。ポスシステムやブランド商品の推奨などの事業が遅れているものの、その他については流通、観光、商品開発など部会活動による取り組みが一部進んだ。 3-4半期以降は役場と部会との連携により事業が円滑に進むよう積極的に働きかけて、事業を支援していきたい。	総	ア
35	教育旅行や団体旅行の誘致に向けた体制の整備	●					B	○	上半期においてインストラクターの講習会により体験型観光の推進を図り、漁業体験(餌やり)、カツオのタタキ体験、釣り堀体験、園芸体験などを試験的に実施し、新たなメニュー化を検討した。教育旅行宿泊のための受入整備面を若いリーダーたちに協議してもらった。 第3四半期については、体験型観光メニューの増加、タリフ・パンフ化により事業推進を図ることとしている。	国	
36	体験観光の推進		●				B	△	上半期において、観光ガイド養成講座実施やウォーキングツアーを検討した。しかしながら、体験型観光対策会(仮称)の開催は中止となった。 第3四半期については、ウォーキングツアー実施に向け、具体的なコース、運営方法、広報について協議することとしている。		

No.	項目	須崎市	中土佐町	橋原町	津野町	四万十町	仕分	進捗状況<上半期>		支援策導入状況	
								I 進捗度 (達成度)	II 進捗(達成)状況及び翌四半期等へ向けての対応方針	補助金	アドバイザー
37	体験型・滞在型観光の推進			●			B	○	上半期において、龍馬であい博のサテライト会場基本構想やテーマが決定した。また、施設設備改修工事もスタートし、おもてなし講座の開催を実施した。 第3四半期についてはNHKエンタープライズとのサテライト会場展示工事契約、工事完了まで行い、同時に運営研修を行うこととしている。	国	
38	海洋堂ホビー館の誘致					●	C	△	上半期において、7月半ばの四万十町・海洋堂協定締結により、両者によるホビー館建設プロジェクトの推進体制は保障されたが、その後のホビー館基本設計及び事業内容における本格的な協議は遅れている状況である。 下半期には具体的な設計の話や地元住民の意見などが出される見込みで、引き続き庁内プロジェクトチームの取り組みをバックアップしていく。		

【7. 幡多地域】 地域アクションプラン進捗管理シート 総括表

No.	項目	宿毛市	土佐清水市	四万十市	大月町	三原村	黒潮町	仕分	進捗状況(上半期)		支援策導入状況	
									I 進捗度(達成度)	II 進捗(達成)状況及び翌四半期等へ向けての対応方針	補助金	アドバイザー
1	消費者から信頼される「施設園芸野菜の産地づくり」	●	●	●	●	●	●	A	○	・品目にもよるが、ほぼ計画どおりの進捗で実行できている。今後も計画に従って事業を進めていく。	県	
2	安全・安心農産物出荷システム構築による「露地野菜の産地づくり」	●	●	●	●	●	●	A	○	・幡多地域の露地野菜の振興について協議する場が遅ればせながらも、JA高知はたと協力して、作ることができた。今後、幡多地域の露地野菜の方向性等を十分協議して行く。	県	
3	「果樹(ブタン・ユズ)の産地づくり」	●	●	●	●	●	●	A	○	・実施計画どおりにほぼ達成出来た。残された課題として、ユズ産地化計画の推進や土佐文旦地域協議会の設立へ向けた協議を実施するなど、チームで第3四半期の実施計画に取り組む。	国・総	ア
4	幡多地域の集落営農の推進	●	●	●	●	●	●	A	○	・既存組織については、2組織で共同防除を実施することとなり、管内の集落営農等組織の活動が広がった。 ・「こうち型集落営農」の各モデル集落営農組織とも今年度の活動計画を作成し、活動計画の内容に沿って活動を開始している。 ・集落営農未設置集落への情報提供(集落座談会)を14地区で開催し、管内各集落での集落営農推進に向けた取り組みが広がっている。	県	
5	有機農業普及・拡大事業			●				C	○	・9月には有機農産物の生産に向け、農業専門員を雇用するなど生産体制を整備するとともに、市民等を対象に有機農業や高付加価値型農業の研修会を実施。翌四半期も引き続き加工(高付加価値型農業)の認識を高める研修を行うとともに、県外の民間事業者と連携し、販路開拓に向けた取り組みを行うこととなっている。検討会等が立ち上がれば参加し、支援する。	国	
6	異業種からの農業参入への支援			●				B	○	・情報の収集並びに建設業者への説明会も開催し計画通りの執行ができた。 ・今後は、より詳細な情報収集を行い、異業種参入支援を行う。		
7	木質ペレット対応型加温機導入			●				C	○	・情報の収集については、可能な範囲内で収集できた。第2回チーム会は若干遅れたが情報の共有化ができた。 ・今後の課題は先進地の研修計画と、先進地の試験データが提供される時期を把握して、遅れることなくデータの収集を行う。		
8	安全で安心な施設野菜・花卉・菌茸栽培、畜産等の推進(新品目・新品種の導入など)						●	C	△	・チーム会等は不定期開催であること。JA・町の事業化判断のタタキ台となる「建設・運営コスト試算」上、経営が困難な状況なことより、判断が困難な状況。10月には、(次年度当初予算化の)一定の判断は必要と思われる。 ・一方で、実証園設置・研修会開催等の堆肥利用促進活動等、需要側へのアプローチを開始した。		
9	中山間地域の保全と活性化						●	A	○	・国の補助金交付決定が6月4日であったことから、計画に比し遅れ気味ではあるものの進捗状況はおおむね良好である。しかしキーパーソンが一次産業従事者並びに高齢者であることから、行政主導型であることが否めない。 ・翌四半期には、事業進捗に関する地域と行政との関わり方について、行政職員内での意思統一を徹底する必要がある。		
									△	・産業振興推進総合支援事業への9月事業申請を取り下げたため、他の財源を検討中だが、確保の見通しはなく、計画は当初通りには進んでいない。財源確保が難しい中で、地域の取り組み針が明らかになった段階で支援。		

No.	項目	宿毛市	土佐清水市	四万十市	大月町	三原村	黒潮町	仕分	進捗状況(上半期)		支援策導入状況	
									I 進捗度(達成度)	II 進捗(達成)状況及び翌四半期等へ向けての対応方針	補助金	アドバイザー
10	消費の変化に対応できるシュッコンカスミソウ産地の再生						●	C	○	・計画はほぼ達成。作付けが始まりだしたため、指導が遅れないように気をつける。	県	
11	土佐はちきん地鶏生産流通戦略	●	●	●	●	●	●	B	○	・新規飼養希望者への現状説明及び「土佐はちきん地鶏生産者個票」の作成。高知県土佐はちきん地鶏振興協議会と協議し生産体制を調整する。		
12	森の工場・間伐の推進	●	●	●	●	●	●	A	○	・既設「森の工場」の計画的な事業執行(利用間伐、作業道開設、機械導入)の指導、新規「森の工場」2ヶ所(四万十市道ヶ谷・味山、黒潮町伊与木・市野々川)の計画作成指導及び事業地を確保するために森林施業プランナーの育成指導を行った。翌四半期に向けて、引き続き事業執行指導を行う。	国・県	
13	県産材の利用促進	●	●	●	●	●	●	A	△	・平成20年度の公共事業、公共施設への県産材利用状況及び平成21年度以降の施設整備(木材利用)計画の把握及び平成22年度以降の施設整備計画などを元に、市町村に木材利用を勧めた。 ・公共事業への木材利用の推進について幡多土木管内の県、市町村の公共事業担当者に説明を行った。8月に予定していた幡多地域県産材利用推進会議はまだ実施していない。 ・翌四半期は県産材利用推進にかかる情報収集を行うとともに市町村に木材利用を勧める。	県	
14	林産バイオマスのカスケード型ゼロエミッションシステム構築			●				C	△	・林野庁補正予算に要望があった個々の事業者の木材乾燥機の整備計画を精査した後、バイオマスの利活用に関する取り組みを進めるかを再度判断する。現在のところは、保留とする。		
15	「四万十の家」の建築と地域産ヒノキの販売の推進			●				A	△	・モデルハウスについては、ほぼ予定どおりの達成状況であるが、木材製品の品質表示やブランド化については、取り組みを開始できていない。現在の協議会メンバーは、建築が専門の者が多いため、木材の品質表示、ブランド化については、市とも協議し、別会議とすることも検討する。品質・ブランド化については、事業スケジュールも再検討する。	国・県	
16	宿毛湾地域環境生態系保全活動事業(藻場再生、サンゴ保全)	●			●			A	○	・関係者の協議を踏まえ、事業の具体的な内容の決定及び実施体制が整った。今後は、地元活動組織の立ち上げや、国の交付金に関する事務的な手続きを進め、10月下旬からの本格的な事業着手に備える。		
17	にぎわいづくりを中心とした地域活性化のための魚加工施設の整備	●						A	○	・交付決定の遅れにより当初の計画からは遅れているものの、改修工事等の発注や雇用の手続きを行った。今後、食品衛生面に考慮した施設の整備、許可、品質表示等について関係機関で協議し、実行していく必要がある。販促活動については、商品の製造をすくも湾漁協栄喜女性部に委託し、各病院の注文に応じた商品形態の開発・販売を実施した。	総	
18	四万十川の資源を活かした環境ビジネスの創出			●				B	△	・市役所側のマンパワー不足もあり、高知大学との具体的な連携の進め方やそれに関連した事業展開が現段階では見えてこない。 ・関係者による協議会を早急に立ち上げ、上記の課題を具体的に進めていく必要がある。またアユ資源回復については、近年の天然アユ資源悪化の状況から、相当思いきった施策を講じないと回復は困難と考えられるので、来年度に向けて具体的な施策を関係者と協議していく。		

No.	項目	宿毛市	土佐清水市	四万十市	大月町	三原村	黒潮町	仕分	進捗状況(上半期)		支援策導入状況	
									I 進捗度(達成度)	II 進捗(達成)状況及び翌四半期等へ向けての対応方針	補助金	アドバイザー
19	資源管理型・つくり育てる漁業の推進						●	A	○	②藻場保全活動については、国の事務処理遅延のため、予定より遅れているものの、過去に実施した下地があるため今のところ特段の問題はない。 ④アカウニの販路については、徳島市中央卸売市場での評価が高かったため、順調。その他、地元での加工販売を着実に進める。 ⑥人工魚礁の整備については、佐賀沿岸域に中層魚礁を整備する方向で検討中。		
20	直七の搾汁・商品加工をする施設整備	●						A	△	・事業計画の調整などの遅れから実施計画で予定していた事業申請が困難となった。今後は事業計画の見直し、事業スケジュールの見直しを行い、なるべく早く事業着手できるよう支援していく。		
21	環境に配慮した街づくりのための堆肥化工場の整備	●						C	△	・事業計画の調整などにより、実施計画が遅れている。引き続き情報収集を中心にかかわっていく。		
22	土佐清水市地域再生計画(大岐地区の開発計画)		●					A	○	・施設整備は特に遅れもなく進行中。(株)土佐清水元気プロジェクトの商品開発と更なる販売拡大が必要。今後は商談会や見本市などの開催情報を元気プロジェクトに伝えるなど、情報提供を中心に支援していく。	国	
23	地域資源を統括したプログラム構築によるしみずの元気再生事業	●						A	○	・備品等の購入や、施設整備は遅れたが概ね進行している。認証土産物づくりに土佐清水駐在の地域支援企画員と協力して支援していく。	総	
24	地元農産物を使った商品開発事業			●				B	○	・JAはたに空き農地等の委託業務を発注。農産物の供給体制の整備に向けた準備を進めている。調査結果が出るまでは、新たな動きはない見込みだが、新たな動きがあれば必要に応じ、支援する。	国	
25	食育プラザ整備事業			●				A	△	・ふるさと雇用再生特別交付金の事業計画の根拠づけ等、必要に応じて支援する。	国	他
26	拠点ビジネスの推進(大月町まるごと販売事業)				●			A	○	・全体にお蔵が出ている中で、実績もでてきている。今後は商品開発等、スケジュールの見直しを行って本年度の事業を完了できるよう、大月町の地域支援企画員とともに関わりを継続していく。	総	ア
27	「黒潮印」の商品開発						●	A	△	・黒潮町議会において予算が凍結されたことから、事業が遅延した。凍結解除となったことから、新たな組織体制が整備された特産協と連携し、試作品の開発など事業の進捗が図られるよう支援する。	総	
28	カツオ文化のまちづくり事業						●	A	○	・実施主体の努力の甲斐あり、無事審査会を通過し、交付決定された。 ・翌四半期は、計画の進捗状況を随時調査し、事業主体について事業目的のブレがないよう働きかける。	総	
29	企業誘致活動の推進						●	B	◎	・情報通信基盤の整備は計画どおりの実績。当初計画で9月に計画していたテレワーカ一の養成は7月に実施。 ・企業誘致施設となる公共遊休施設の改修は、産業振興推進総合支援事業費補助金(H22.3申請予定)ではなく、地域活性化経済危機対策臨時交付金を活用することに変更し、改修のための予算案は7月町議会で議決するなど計画を前倒しで実施。翌四半期は、事業の進捗状況の把握に努める。	国	

No.	項目	宿毛市	土佐清水市	四万十市	大月町	三原村	黒潮町	仕分	進捗状況(上半期)		支援策導入状況	
									I 進捗度(達成度)	II 進捗(達成)状況及び翌四半期等へ向けての対応方針	補助金	アドバイザー
30	「子ども農山漁村交流プロジェクト」受入事業の推進	●	●	●	●	●	●	A	○	・子どもプロジェクトによる教育旅行は、事故等もなくスムーズに受入が実施されている。また、体験プログラム開発については、教育委員会のアドバイスも受けながら、既存プログラムの見直しを図ることで今後検討していくこととした。 ・第3四半期以降は、であい博アドバイザーの藤澤安良氏の活用を図りながら、インストラクターのレベルアップなど受入体制の強化に取り組んでいく。	国	
31	幡多広域における滞在型・体験型観光の推進	●	●	●	●	●	●	B	○	・先進地(長崎県まつら党交流公社)視察結果を踏まえて、一般社団法人設立を目指して取組みを進めることで、協議会臨時委員会でほぼ合意は得られた。今後、事業計画案の作成及び必要な財源確保に向けた取組みを行う。 ・あわせて、コーディネート組織の強化については、土佐・龍馬であい博アドバイザーの藤澤安良氏のアドバイスを受けながら進めていく。	国・県	
									○	・事業着手に遅れがあったものもあったが、今年度事業についての取組みを各事業実施主体で進めている。 ・今後、来年度から実施する事業について、事業内容の詳細を詰めていく必要がある。		
32	NPO電串観光振興会を中心とした電串観光事業	●						B	○	・本年度の事業は順調にこなしている。会に自主財源も乏しく、活動自体も観光事業の下支えの意味合いが強い。今後も引き続き、土佐清水市駐在の地域支援企画員と連携をとりながら、取組み自体に参加するなど、会の支援を続ける。		
33	四万十の秋・冬の味覚満喫体験		●					A	○	・イベント内容の協議、決定、広報 ・翌四半期には各種イベント実施、ふりかえり、次シーズンへの誘客活動を行う。	県	
34	竜ヶ浜自然体験及び環境教育型施設整備			●				B	△	・大月町として事業の具体化に向けて動いていない状況。翌四半期も状況を把握していく。		
35	グリーンツーリズム(異業種間連携事業の推進)					●		C	○	・遊休公共施設改修事業→改修費用2,250万円を国に要望 ・翌四半期には遊休公共施設改修事業について、改修後施設の活用の方向性を関係者で協議(体験型観光への活用であるとか製品の展示場であるとか。)		
36	ブルーツーリズムの推進					●		C	○	・黒潮一番館インストラクター研修実施、みなとオアシス臨港地区指定に向け県港湾課、都市計画課と協議 ・翌四半期にはみなとオアシスの整備に関してシーカヤック艇庫の整備を検討		
37	砂浜美術館構想の推進					●		C	○	・入野松原の再生→高知大学との協働事業によるボランティア整備 ・広域観光受入れのための総合的な取組→情報基盤、本年度工事分入札、砂浜トレーニングセミナー開催 ・翌四半期には入野松原の再生→松原内でキルト展を開催し、自然との共生にふれ、考えてもらう。広域観光受入れのための総合的な取組→砂浜トレーニング体験セミナー第2回目の開催	国	